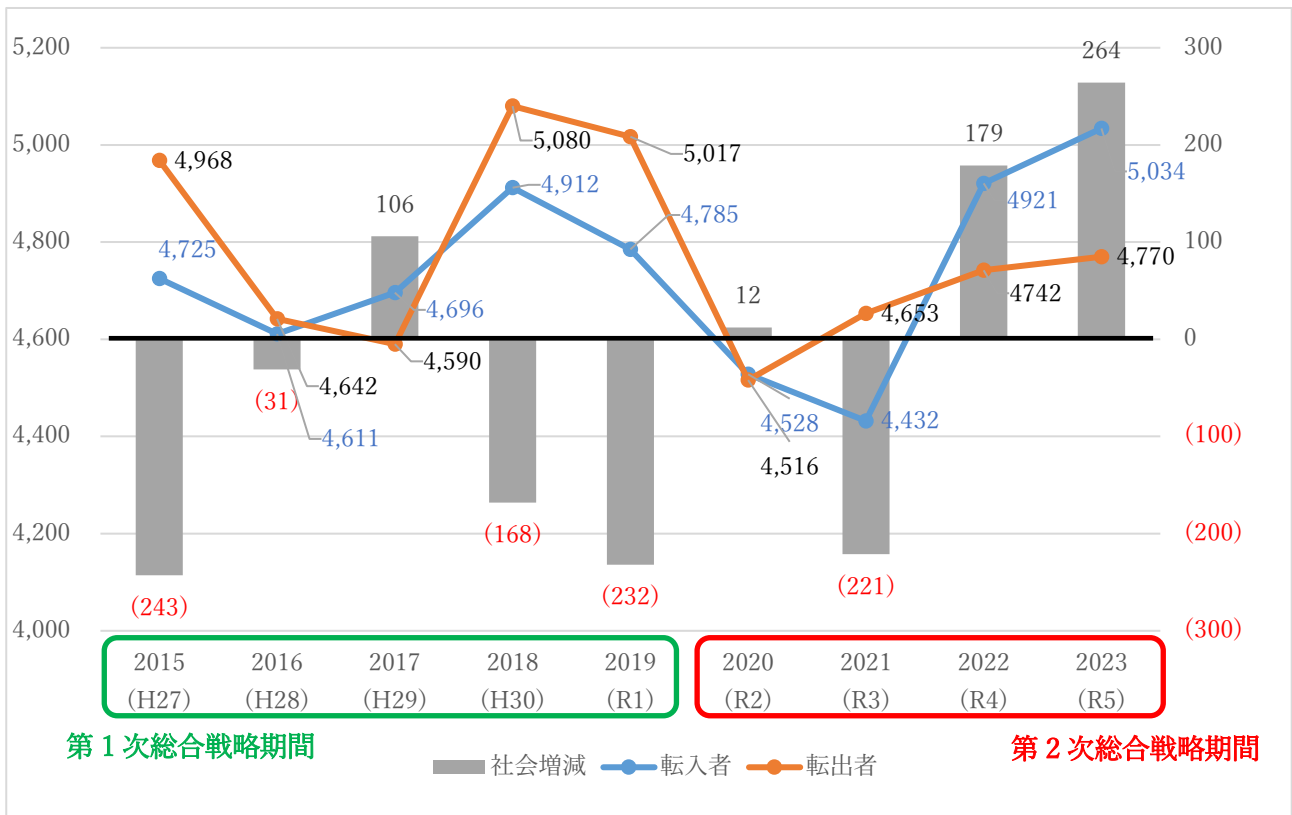


飯塚市
まち・ひと・しごと創生総合戦略会議
人口推移資料

I. 社会増減について

①転入者数・転出者数の推移(2015(平成 27)年～2023(令和 5)年)



※福岡県人口移動調査第4表及び第5表より

転入者は近年 4,500 人程から 5,000 人程へ増加、転出者数は 4,700 人程度で推移しています。2023(令和 5)年は転入者が 5,034 人となり、2015(平成 27)年以降では最も多くなっています。

転出者は、コロナ禍以降、毎年増加していますが、増加数は毎年減少しており、令和 5 年は、令和 4 年から 28 人増加しています。

そのため、転入・転出ともに年々増加しておりますが、転入者の増加数が大きいことから、令和 4 年以降は転入者数が転出者数を上回り、令和 4 年では 179 人、令和 5 年では 264 人の転入超過となっております。

②年齢区分別転入者・転出者数の推移(2020(令和2)年～2022(令和5)年)

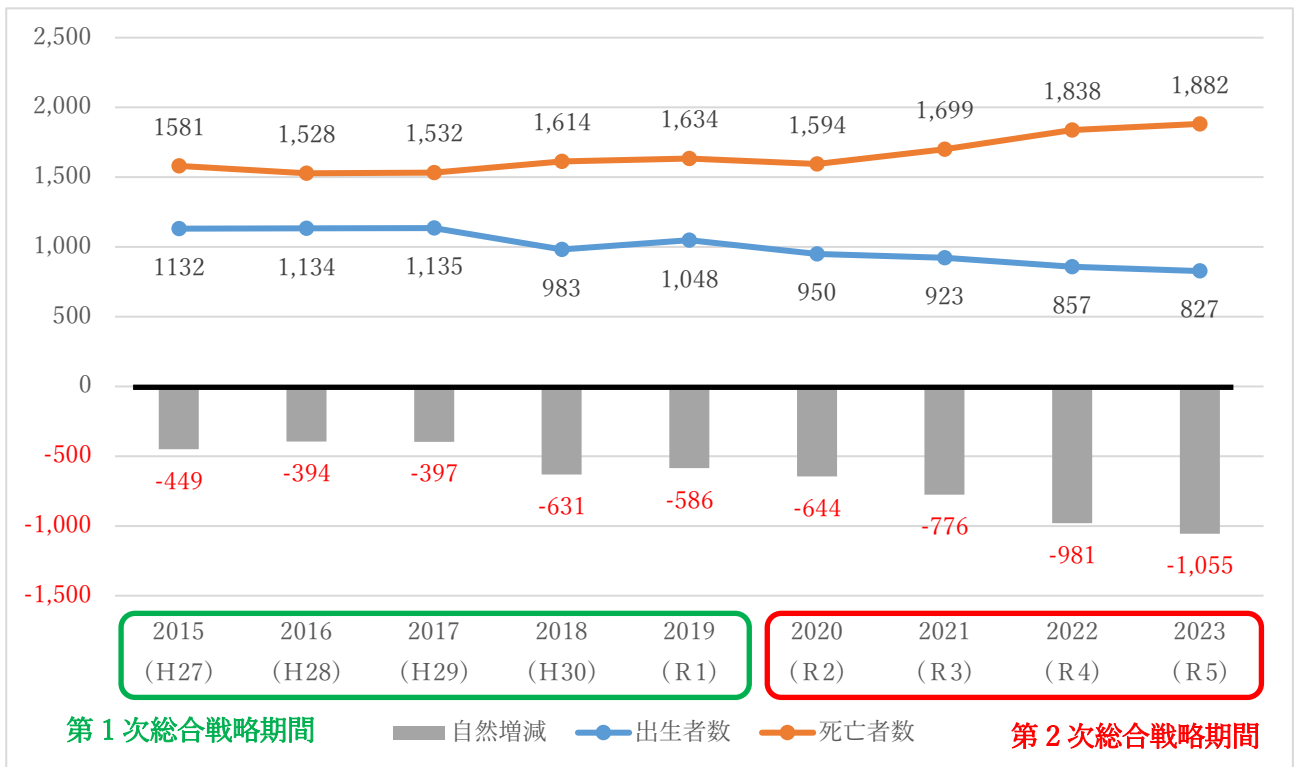
	転入			転出			転入超過		
	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
0～4歳	230	294	293	307	283	274	-77	11	19
5～9歳	123	167	151	112	148	111	11	19	40
10～14歳	84	96	79	73	80	82	11	16	-3
15～19歳	422	422	370	302	277	305	120	145	65
20～24歳	882	967	1,062	1,048	1,023	1,079	-166	-56	-17
25～29歳	754	844	866	864	871	875	-110	-27	-9
30～34歳	500	541	603	571	560	529	-71	-19	74
35～39歳	328	384	363	311	375	371	17	9	-8
40～44歳	237	280	247	244	248	238	-7	32	9
45～49歳	240	199	227	179	226	232	61	-27	-5
50～54歳	140	187	178	139	161	163	1	26	15
55～59歳	115	120	140	100	99	113	15	21	27
60～64歳	88	97	104	84	90	87	4	7	17
65歳以上	289	323	351	319	301	311	-30	22	40
総数	4,432	4,921	5,034	4,653	4,742	4,770	-221	179	264

※福岡県人口移動調査第4表及び第5表より

令和3年時点では、0～4歳及び20歳～34歳の転出超過が大きく、飯塚市全体では221人の転出超過でしたが、令和4年以降、転入超過となっており、令和4年時点で0～4歳が、令和5年時点で30歳～34歳が、それまで転出超過であったものから転入超過に転じています。また、20歳～29歳についても、引き続き転出超過ではありますが、転出超過数は減少しています。

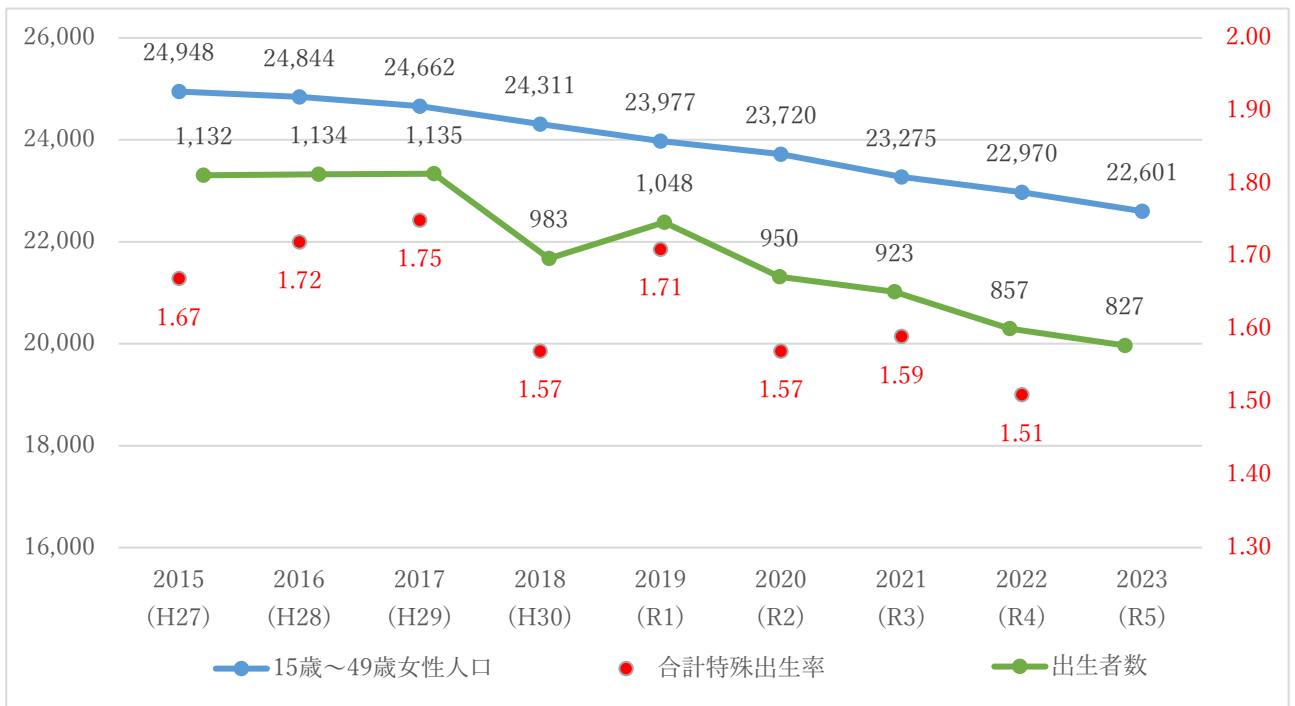
II. 自然増減について

①本市における出生者数・死亡者数の推移



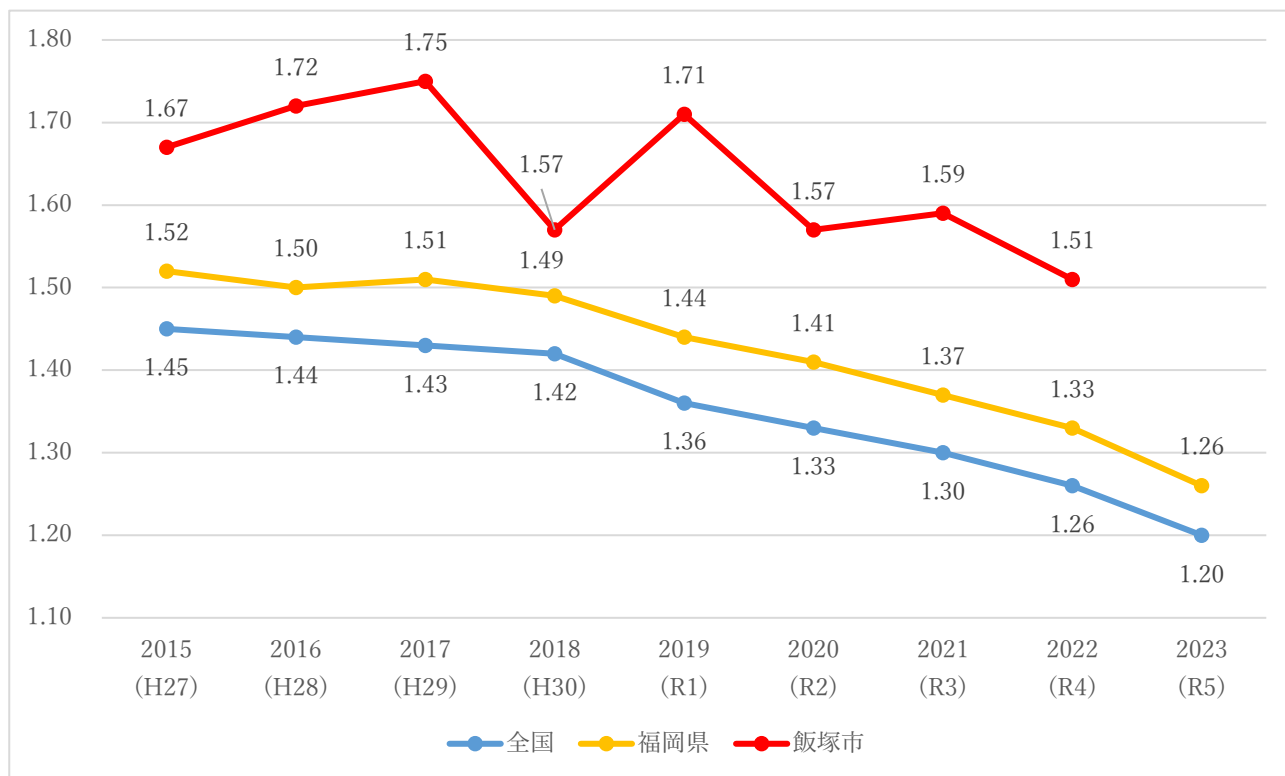
※福岡県人口移動調査第6表より

②出生者数と15歳から49歳までの女性人口数の推移



※住民基本台帳、福岡県人口移動調査第6表及び子ども政策課資料より
(合計特殊出生率 2023(令和5)年数値は未算出)

③飯塚市の合計特殊出生率の推移(全国、福岡県比較)



※厚生労働省「人口動態統計」及び子ども政策課提供資料より
(2023(令和5)年飯塚市数値は未算出)

【グラフ①】

2015(平成27)年から2023(令和5)年まで全ての年で自然減です。

2018(平成30)年以降は、出生者数の減少傾向と死亡者数の増加傾向がみられ、自然減数が増加傾向となっています。

【グラフ②】

15歳から49歳までの女性の人口は年々減少しています。

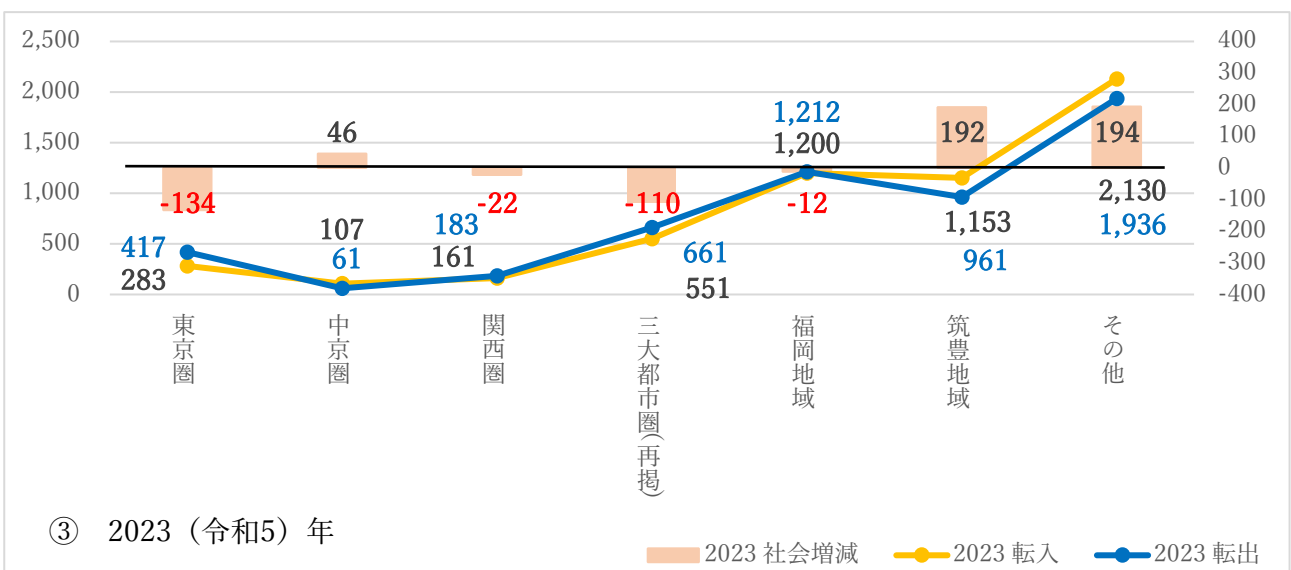
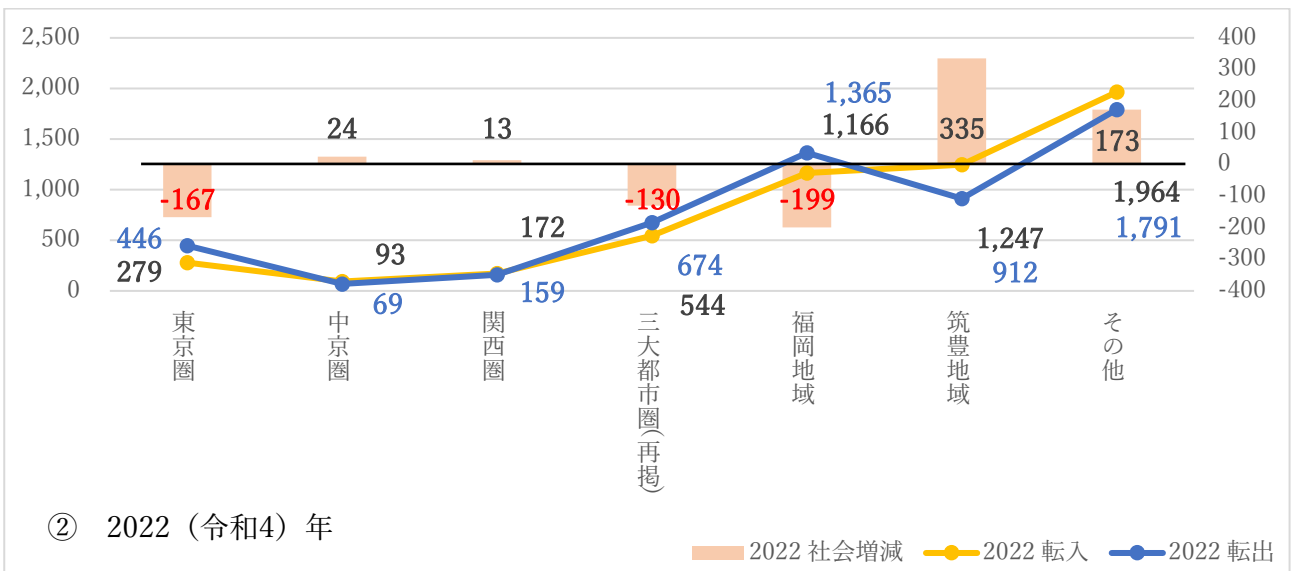
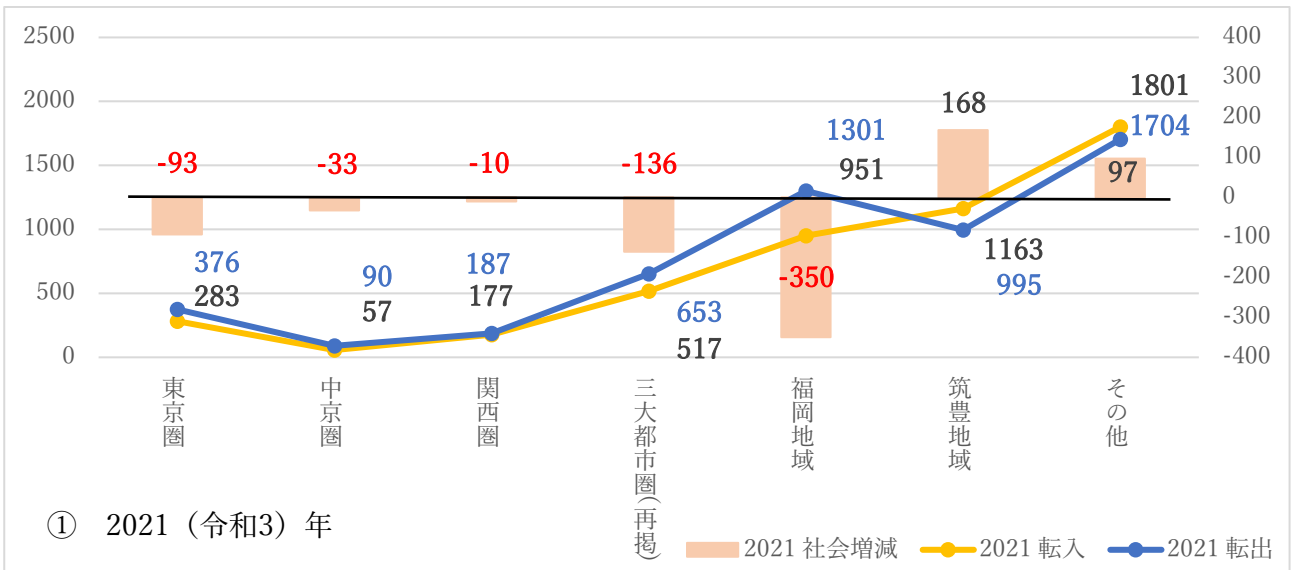
2015(平成27)年から2017(平成29)年までは15歳から49歳までの女性の人口数が減少している一方で出生者数がほぼ横ばいであったため、合計特殊出生率は年々上昇していました。

出生者数は、2015(平成27)年から2017(平成29)年までは横ばいでしたが、2019(令和元)年以降は減少傾向です。

【グラフ③】

本市の合計特殊出生率は低下しているものの、例年全国及び福岡県を上回っており、2021(令和3)年は全国及び福岡県が低下している中においても、上昇しています。

Ⅲ. 本市における地域別転入・転出者数



※東京圏：神奈川県、埼玉県、千葉県、東京都 ※中京圏：愛知県、三重県 ※関西圏：大阪府、京都府、兵庫県
 その他：三大都市圏、福岡地域及び筑豊地域を除いた地域

【各年のグラフを比較して】

三大都市圏については、転出超過で推移していますが減少傾向です。その中でも中京圏は令和4年から転入超過へ転じています。

飯塚市からの転出超過数が最大地域であった福岡地域が、近年の転出者数減少・転入者数増加により、転出超過数が減少傾向となっています。

筑豊地域においても、年によって数の増減はあるものの、転入超過を維持しています。

IV. 人口の現状

2023（令和5）年進捗状況 ※実績値は令和5年9月末時点

	独自推計（※）	実績値	差
総人口	125,663人	125,095人	▲568人
年少人口	16,199人	15,879人	▲320人
生産年齢人口	68,706人	68,963人	257人
老年人口	40,758人	40,253人	▲505人

住民基本台帳の人口数において、生産年齢人口は目標を上回っていますが、総人口、年少人口及び老年人口は目標を下回っています。

（※）独自推計

第2次総合戦略における本市の独自推計は、自然増減については、合計特殊出生率が2040（令和22）年までに人口を維持していくために必要な水準2.07に上昇し、それ以降は2.07のまま推移するものと仮定、社会増減については、純異動数がゼロで推移するものと仮定し算出したものです。

なお、最新の国勢調査結果は2020（令和2）年に実施されたものであることから、2021（令和3）年から2025（令和7）年の推計値については、住民基本台帳による人口数を基に各年の独自推計（目標値）を算出することで、達成状況の把握を行っております。